

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 香紅の里
(ユニット名)	ひなた
所在地 (県・市町村名)	山形県村山市楯岡俵町20-19
記入者名 (管理者)	神野 知恵美
記入日	平成 19年 9月 28日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしさと生きがいを大切に、笑顔と安らぎのある家。～私達は家族です～」事業所独自の理念を作り上げています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に、復唱し、事業所独自の理念を全職員が理解し、毎日のサービス提供に取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	グループホームの玄関に理念を掲示し、お客様、ご家族、地域の方々に理解していただけるようにしています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	小学生の通学路となっている為、通学時間は窓の外を見て、異常が無いかを確認しています。区長さんをお願いして各行事の案内等を回覧版にはさんで回して頂いています。定期的にお茶会を開催し近隣の方をお招きしています。	<input type="radio"/> 現在の所、行事以外での近所の方の訪問はありません。気軽に立ち寄っていただけるように、もっとグループホーム香紅の里をアピールしていかなければならないと考えております。近所のゴミ拾いなどを行い、もっと地域のお役に立ちたいと考えています。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生の通学時の見守り隊として、小学校よりお願いされています。	<input type="radio"/> 地域のボランティアサークルを通じ、職員、お客様共に公共の場の清掃活動など行っていききたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>月々開催される民生委員会に出席させていただき、事業所の説明をし、地域に方々に発信しています。</p>	○	<p>民生児童委員の方から、何らかの依頼があれば検討したいと考えています。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価結果を踏まえ、委員会を中心として改善に取り組んでいます。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>推進委員の方々からの質問や指摘に対して、その場でお答えし、改善し、経過報告をしています。また、事故報告や苦情報告をし、情報を提供しています。また、アンケートの結果報告をしています。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>毎月、介護保険事業者連絡会に参加させて頂いている他に、介護保険の更新の際やグループホーム便りが出来た時等に担当の方にご挨拶にお伺いしています。運営推進会議の議事録を毎回お渡ししています。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度にいつの勉強会を開催し、必要な方には活用できるように支援する体制を整えたいと考えています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法令遵守の勉強会を行っており、虐待や身体拘束についての勉強会を企画、実施しております。お客様の軽微なケガについても、その原因を究明していますので、施設内での虐待は起きてはいないと供に見過ごすことも無いと考えております。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を読みあわせをし、質問をして頂き、わからない事がないようにしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の会話の中で、入居者おひとりお一人に悩みや希望などをお聞きしたり、表情や行動を見て常に意見を聞きだしています。	○ さらに、いつでも、誰にでもお客様が苦情や意見を言いやすい環境をつくっていきたいと思います。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当者がお客様の様子をお知らせするために、ご家族様にお便りを出しており、写真も同封させて頂いています。毎月出納帳を付けレシートと出納帳をご家族に確認して頂いています。職員の異動についてはお知らせしていませんでした。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートを実施し、意見を頂いています。	○ ご意見頂いたものに、今後どのように取り組んでいくかを記載しご家族様に送付しようと考えています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議、各委員会等を開催し、また、定期的に個人面談を行い、意見や提案ができるようにしている。それを反映させています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	年間計画、月間予定をもとに勤務表を作成し、必要に応じ勤務調整をしています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の交流を行い、他ユニット職員との関係作りをからの異動を実施している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修参加しています。参加した職員による勉強会を開催し、質の良いサービス提供ができるように介護に関する情報(知識、技術など)を共有しています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交換研修や県主催の認知症実践者研修や県GH協会主催の研修に参加し、交流しています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に個人面談を行い、その職員が今、抱えている不満や悩み等を汲み取り、日頃の業務に活かして、働きやすい職場作りに取り組んでいます。また、時間を設定し、休憩が出来るように工夫しています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	1年を上期と下期に分け、それぞれ達成すべき目標を立ててもらい、それに向けて日々努力して頂けるように、全員分の目標を張り出し、互いに意識しあってもらい、達成に向けてがんばっています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みを頂いたら、まずパンフレットを用いてホーム見学をして頂き、相談内容をお聞きし、自宅訪問を行いご本人の状態を確認させて頂き、ご本人の意思確認を行っています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用申し込みされる際は、ご本人の意思確認(できる方)をして頂きご家族様を含め、不安なこと、心配なこと、希望などをお聞きし安心できるようにしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設の理念や入居していらっしゃるお客様に合わせて、相談を頂いた時点で、グループホームに合っているのか、入居された場合、協同生活を営むに問題は無いかな等を会議に掛け、その上で、適切と思われる機関を紹介させて頂いています。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に調理したりする場面で、調理方法や味付け等教えて頂いたり、個別レク等でその方の馴染みの場所へ出かけた時等に土地についてや仕事の事等を生き活きと教えて頂いています。不安な事があれば傾聴し一緒に考えるようにしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告で、その月に行った行事の写真を同封させて頂き、施設での様子を伝えております。面会に来られたご家族様からも、表情が良くなったと、喜びの声が聞かれています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月一回のホーム便りと一緒に、手紙や写真を送付し近況を報告している。必要に応じて面会の少ない方には、電話で心身の状態や、生活の様子を報告しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から通われていた、床屋さんに行き馴染みの人達と会える機会を作っています。自宅周辺やご自身の畑の周りをドライブしたりしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	男性のお客様が多いため、それぞれ別々の過ごされ方をしていますが、一緒にソファに座られてテレビをご覧になったりされています。女性のお客様同士は主に食卓のテーブルでお話されています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家庭に戻られたお客様には、デイサービス利用のお誘いや残暑見舞いを出させて頂き、グループホームの近況をお知らせしています。また、居宅のケアマネージャーに自宅での様子を伺ったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その人らしさ」に重点を置き、担当を中心に、以前の職業や趣味をお聞きし、本人の希望が何であるかを把握し、グループホームにおいてもできる事を見つけるように取り組んでいます。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴からできることや、やってきたことをケアプランに落とし込んでいます。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりに役割を持って頂き、日々もつとできることはないかと、残存機能の発見に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしく暮らし続けられるように、サービス担当者会議を行い、本人や家族、担当のケアマネージャーと担当職員または、他職員の意見やアイデアを出し合い、介護計画を作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居された日から1ヶ月間は暫定プランとして、次はカンファレンスを行い、その方にあつたプランを作成し、3ヶ月間実施し、その後は6ヶ月毎の定期でアセスメントを行い、カンファレンスをしてプランを作成しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添って一日の流れが分かるように、ご家族様が読んでも分かる言葉で記録を行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	ホームの行事の際、ボランティアの受け入れを行っている。消防署の協力により、避難訓練時や救急対応の勉強会を行っている。また、近所の商店街を利用している。なお、各機関への働きかけをしています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	入居前の担当ケアマネージャなどへ、状況報告をしたり、関係を築いています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議に地域包括支援センター職員出席していただきに、必要に応じ共働できるようにしています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、主治医より往診に来て頂き、健康管理をして頂いております。状態に変化のあった時は主治医に連絡し、受診し結果をご家族様に報告しています。以前からの掛かりつけ医に受診を希望されているお客様にはご家族様の協力を得て支援して頂いております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	すぐ近くに訪問看護ステーションがあるので、非常時の連携や医療連携体制を進めていきたいです。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個別ケアに取り組み、入居者の人権・人格を尊重する「こやまケア」を実践し、職員の資質向上とサービスの向上を目指して、自己評価や自己評価をし改善に努めている。職員一人ひとりが、誓約書を記入しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	水分補給時の飲み物を選んで頂いたり、入浴は希望する時に入って頂く等、なるべく、意向に沿えるようにしています。また、通院時などに、本人の希望があるときは外食したりする事で気分転換を図っています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが活躍できる役割を見つけ出し実行できる工夫をしています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎朝、本人が鏡の前で整容できるよう介助し、洋服も選んでもらい、おしゃれして頂いている。近所の理容所や馴染みの美容院などに出掛けています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りが出来る方には職員が側で見守りながらして頂いています。味付けから盛り付け、配膳まで可能な限り一緒にして頂いています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は、晩酌を前からされていたお客様には、入居されてからもして頂ける様に訴えられたら提供しています。タバコもお体の事を考えて本数は制限させて頂いていますが、中庭にベンチを置いて吸って頂いています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	お一人おひとりの排泄パターンを全職員が把握し、周囲の人には、トイレとはわからないような声掛けで誘導しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	24時間入浴可能な設備である。毎日でも入浴できる体制であり、入浴時には、ゆっくりと関わりを持ちながら、なおかつ、プライバシーの配慮をしながら行っています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お一人お一人の状態に合わせて日中の活動、散歩、ドライブ、趣味活動など、適度な運動を行い安眠できるようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割については上記の通りですが、気晴らしや楽しみ事は個別レクを通して、その方にあった物を定期的に行っています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きなお金は、事務所で保管していますが、手元に無いと不安な方には、ご家族様の了承を得て本人様が持っています。毎日の食材の買い出しの際に、お預かり金から少しもって行き好きな物を自由を買って頂いています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、食材の買い物に出かけており、同じ方だけにならないように交代でお誘いしています。外出欲が見受けられたら無理に止めず、職員と一緒に外出し、施設の周りを散歩しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人様の意向をお聞きし、色々な場所に出かけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や記念日等に荷物が届いた時などは、職員が電話を掛け、ご本人様に出てもらいお話する機会を作っています。また、お客様からの電話の希望があった場合には随時掛けて頂いています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人様の居室で過ごされる面会者もいれば、ご本人様を交えてソファで談話されたりもしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	教育委員会主催の勉強会の議題にも取り上げており、実際に体を拘束するフィジカルロックだけでなく、その他の拘束についても、しないように指導しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中の施錠は行わず、外出したい方には職員が付き添い、いつでも出て行けるようになっています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	徘徊時も距離をおいて付添い、決して拒否はせず、否定はせず、ご本人の思いを受け止めて接しています。	○	離棟事故につながらないように、アセスメントを十分に行い、情報を共有し、安全に配慮していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	見守りを行いながら、ハンドソープの使用を行っている。包丁やハサミもケースに入れ目に付かない様にしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	当施設では、転倒の他に離棟の事故が多く、会議等で決定した対策を職員全員に周知し、統一したケアを行うことで、事故の防止、軽減に繋がっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会を開催し、外部からの講師を呼んで講習会も実施したが、全ての職員が参加した訳ではない為に、できない職員もいる。マニュアルはあるが、周知徹底がなされていない。	○	定期的な勉強会の開催を行う。マニュアルの読み合わせを行なって周知徹底を図る。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。非常時の緊急連絡網を活用し速やかに職員の協力体制が取れるようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	歩行に不安のあるお客様でも、なるべく歩いていただくようにしている。万が一、転倒された時は、速やかにご家族様に連絡し、事故の状況と怪我の有無を報告している。ご家族様もリスクについては理解されているが、極力転倒は起こさないように心掛けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行い、異常の見られた方は再検を行い、状態の観察を行っています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書を頂いており、効能と副作用について周知するようにしています。また、誤薬を防ぐ為、日付けとお名前を言葉に出してお客様にお渡ししています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の工夫(繊維)水分摂取を考慮し便秘予防をしています。また、主治医に相談し、排便コントロールを行っています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの促しと介助を行っており、就寝前に義歯の消毒を実施しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、カロリー計算を行っており、水分量も測っています。少ないと思われるお客様には、好みのもので集中的に摂って頂ける様に促しています。バランスを考えて献立を立てています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	安全・感染委員会の主導で勉強会を行っています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	お客様も含めた、調理前の手洗いの徹底を行っています。また、夜間の調理器具の消毒を行っています。食材の賞味期限のチェックを行い、冷蔵庫内に溜め込まないようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の玄関の前には花の鉢を置いています。ユニットの玄関の前は特に何も工夫はしていません。玄関の中には掲示板があり前月の写真を貼って面会者やお客様に見て頂いています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下などは、幼稚になり過ぎないように、写真や絵などを飾り、落ち着きある空間を造っている。季節を感じられるように花などで工夫しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室に堀コタツがあり、そこで、お客様同士が談話されたり、横になられて休まれたりしています。食卓の椅子に座られたり皆様思い思いの場所で過ごされています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には最低限、ベッドと洗面台、クローゼットがあるだけで、お客様が使い慣れた物を持って来て頂ける様になっています。お布団で休みたい方には、畳のお部屋もあり落ち着いて休んで頂けるようにしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や温度調節には気を配り、こまめにチェックしています。お部屋によっては臭いの気になる所があるのも事実です。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様一人ひとりが自力でできる範囲を把握し、側面からのケアを心掛けている。安全を考え出来ない所は介助しています。施設内のエレベーターもなるべく使用せずに、階段を使用してもらうように促しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家庭的な雰囲気を壊さないように表示や表札を掛けたり、居室には一人ひとりが使い慣れた家具などを持ち込まれたり家族の写真なども置き安心して過ごせるように配慮しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇やプランターの水やりを一緒に行っています。また、中庭には、畑を作り、作業の後はベンチで眺めたり、日光浴を楽しんでいます。	○	季節を通してもっと中庭を活用していきたいです。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームは開設より1年半が経過し、ようやく軌道に乗りだした感じであり、事業所として力を入れている点は、お客様一人お1人に寄り添うケアを行うこと。その人らしさを大切にすること。安心して過ごして頂けるように、目配り、気配り、心配りを忘れないこと。夢や希望をかなえることを一番の喜びとすること。喜び、悲しみ、楽しみを分かち合うこと。生き活きと輝く笑顔が何よりも大好きなこと。生きる力を引き出す為にチーム全体で取り組むこと。ご家族様や大切な人と交流が図れるように支援すること。プライバシーを守ること。お体の具合に常に気を配ることをケアの指針としています。ユニットとして取り組んでいることは、個別レクでお客様一人ひとりの希望を叶えることです。自宅で過ごしたい方には、ご家族様の協力も頂き、自宅改修をして頂いて、自宅を訪れた時に不自由にならないようにしてもらっています。後は和室をもっと過ごしやすい空間とするために、調度品等も実際に昔使っていた物を持って来て頂くなどしていきたいと思っております。